

五常

編集発行
コミュニティ
協議会
広報委員会

人口
7540人
世帯数
2957世帯
平成25年3月現在

地震に備えて、我が家の力「自助」のアップを！

大災害が発生したら、自分の命は自分で守る「自助」や、自分たちの地域は自分たちで守る「共助」が重要であることは、阪神・淡路大震災から学んだ大きな教訓の一つです(広報紙27号、ホームページで閲覧可能)。今回は自助を取り上げます。

阪神・淡路大震災では、犠牲者の83%が家屋の倒壊や家具類の転倒による窒息死・圧死であり、87%の人が自宅で亡くなりました。地震対策で、

最先で考えるべきことは「我が家で死なない、大怪我をしない」ことです。我が家を安全な空間にすることは自分自身にできないことです。自分の手で、自分・家族・財産を守る備えを行いましょう。

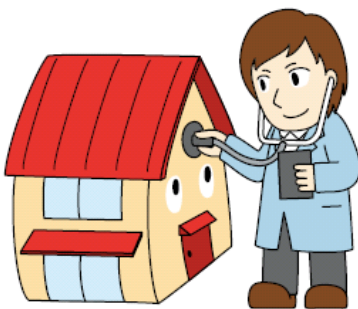


我が家は地震に耐えられる？

阪神・淡路大震災では、倒壊した建物の90%以上が昭和56年6月以前に建設されたものといわれています。建築から相当の年数が経過している住宅や、古い耐震基準で建てられた住宅は、地震が発生すると倒壊するおそれがあるので、耐震診断をして、もし弱いところがあれば補強するのが基本です。

枚方市では、住民が自宅の耐震診断・改修を行いやすいように、費用を補助する制度を設けています。木造住

宅は耐震診断費用の90%以内、非木造住宅(マンションを含む)は50%以内が補助されます。耐震診断により耐震改修が必要とされた建物の補強工事にも補助制度があります。これらについて詳しくは枚方市建築安全課(電話072(841)1221)にご相談ください。



なお、枚方市などの行政の名をかたり、耐震診断や改修を勧める個別訪問が行われているとの情報もありますので、十分にご注意ください。

我が家を安全な空間に

◎家具の転倒防止

私たちは、家具をはじめたくさんの物に囲まれて暮らしていますが、家具の配置を工夫するだけでも、家の中の安全性を高めることは出来ます。地震

発生時には部屋の中で重い家具や大型電化製品などが転倒し、圧迫死や、大怪我、出入口を塞いで避難ができない原因となります。

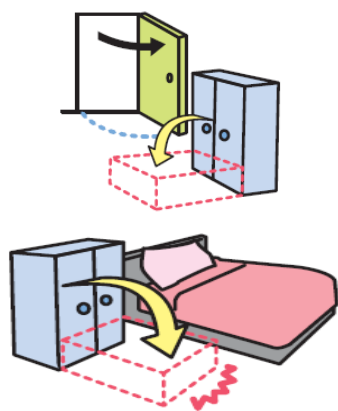
家具が地震の時に倒れないように固定したり、高い所から物が落ちてこないようにすることは、命を守るための最低限できる対策でしょう。「固定の仕方が分からない」とか「家具に傷をつけたくない」と言う方もおられます。自分や家族の命がかかっているのですから、分かなければ分かる人(市役所など専門家)に聞けばよいのです。大切な家具に傷を付けたくない気持ちも分かりますが、命とどちらが大切なのでしょう？



家具の転倒防止のために、すぐに出る事は、重いものを下に置き、新聞紙等を家具と床との間の手前の方にはさむことで、重心を下げる事です(これだけでは不十分で、固定することが確実です)。

◎家具の配置で安全を

「寝室に家具を置くな」とはよく言われています。確かに、寝ている所に倒れてくるような家具は置かないことが大切ですが、1m程度の背の低い家具は、天井などが落ちてきたときに、生き延びるための空間を作ってくれる可能性が高いとも考えられています。寝室の状況に応じて検討しましょう。また、倒れたら部屋の出入口を塞ぐことになる位置にある家具は移動しておくことも必要です。



家族間の連絡方法や避難場所を確認

避難場所を確認

地震はいつ起こるか分かりません。家族がバラバラの場所で被災しても「あそこに行けば必ず家族がいる、あそこに行けば必ず家族がいる」という信頼感があれば、いざと言う時に迷わず行動できます。そのためにも家族の間で、万一の場合の避難場所等について繰り返し話し合っておくことが大切です。



災害発生時には電話がかかりにくくなる状況になります。家族で話し合って、遠隔地の親戚や知人を安全確認の連絡先しておくことも工夫の一つです。被災地への電話がつながりにくくなった場合には「災害伝言ダイヤル171」(忘れてイナイ(171)と覚える)が提供されます。毎月1日と15日など体験利用日も設定されています。

詳しくはNTTのホームページ等で確認してください。

非常時のための防災用品

防災用品は大別すると「非常持ち出し品」と「非常備蓄品」に分けられますが、地震は突然やってくるので、外出先で被災する可能性もあり、「平時の備え」も大切です。

「平時の備え」といっても特別なものではなく、普段も役立つ、持ち歩けるもので、持っている安心できるもの、最低限必要なものを自分の生活に合わせて考えてみてください。例えば携帯電話と電池式の充電器、小型の懐中電灯、笛(助けを呼ぶときに役立つ)、飲み物、チョコレートなどの携帯食、冬なら使い捨てカイロ、ポンチョや雨合羽があれば役立つそうです。



「持ち出し品」は被災した当日、身の安全を確保するための最低限の備えで、自分で持てる範囲でリュックなどにコンパクトにまとめ、玄関や寝室な

どの持ち出しやすい場所に常備します。【備蓄品】は、電気、ガス、水道などのライフラインが断たれた中で数日間をしのぐために必要なものです。とりあえず最低限の生活ができるために必要なものを考えてみてください。水、食料品のほか、みんなに共通するものとして、排泄のための携帯用簡易トイレ、情報を得るための携帯用ラジオ(電池の予備)も大切です。



備蓄品は台風や体調を崩して外出できないときにも役立ちます。そのような機会に備蓄品を活用して非常時の暮らしを体感し、備えを確認、充実させることもできます。

必要な防災用品は一人ひとり違うことから、防災関係の資料や新聞などに載っている「防災用品一覧」を参考にしながら、我が家(自分)には何が必要かを自分で考えて、準備することが大切です。

第10回防災フェスティバル

平成25年3月3日に第10回防災フェスティバルが開催されました。最近2年間は講演会形式でしたが、今回は地震発生時の行動を実際に体験する実地訓練型でした。

午前8時30分に大地震の想定の下、自治会(管理組合)ごとに公園などに集合した参加者は、避難経路を確認しながら、校区の第一次避難所の五常小学校へ避難しました。

運動場に集合した総勢約400名の参加者は竹内脩枚方市長等から激励を受け、枚方消防署や枚方市消防団の指導により、訓練に参加しました。初期消火訓練では先ず大声で火事を知らせると共に119番通報を確認



消火器を使って、さあ放水!

寒さを吹き飛ばす熱意で訓練に参加

実に依頼したうえで、水消火器での放水などを体験しました。人命救助訓練では心臓マッサージやAEDの使い方を楽しくやさしく説明していただきました。



運ぶ人も、運ばれる人も緊張します

応急搬送訓練では毛布と物干し竿を使った担架を使い、救助用機材取扱い訓練ではチェーンソーで角材を切断するなど、日頃は出来ない体験でした。訓練終了後、参加者には非常食のアルファ化米と備蓄水を配布しました。非常に寒いなか、熱心に指導や説明をしてくださった消防団等の皆様、参加していただいた皆様に感謝いたします。今回の取組みが、ご近所どうしのつながりのキッカケになり、いざという時の地域の助け合いの力のアップに少しでも役立つことを願っています。

五常の冬の楽しみ! 第23回とんど祭り開催

第23回とんど祭りを平成25年1月13日に開催し、600人以上の参加がありました。五常校区のとんど祭りは昭和59年に青少年を守る会がはじめました。いまだでは地域のお正月の行事として五常校区コミュニティ協議会が各自治会のご協力を得て行っています。

各自治会等から選出された実行委員の皆さんが前日から竹の伐採、焼き芋、ぜんざい、豚汁(PTAに担当していたいただきました)などの準備を行い、当日早朝からとんど櫓の組み上げを行いました。



燃え上がるとんど

五常小学校和太鼓クラブの力強い演奏につづき、野々村会長が竹内脩枚方市長からいただいたメッセージを披露

しました。ペットボトルロケット発射の後、巳年生まれの小学生在が点火し、とんど櫓は勢い良く燃え上がりました。



美味しいぜんざいを、どうぞ!

参加いただいた方には、温かい焼き芋、ぜんざい、豚汁が振る舞われ、これを楽しみ家族連れの姿があちこちで見られました。今年もブルーシートは大人気で長蛇の列でした。大人には御神酒も振る舞われ、お正月気分を楽しんでいたいただきました。

櫓の竹が火の中で破裂しポンポンと大きな音をたて、また、空に舞い上がった藁の燃えかすが住居に落ちるなど、近隣の皆様にご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。地域の人々の繋がりをつくる伝統行事を今後も続けたいと思いますので、皆様のご協力、ご支援をお願いいたします。

見守り隊に「参加を

黄緑色のタスキを掛けて、下校時の五常小学校の子どもたちに声をかけている「五常っ子見守り隊」は、多くの皆様の熱意で支えられています。



気をつけて帰りや! はあーい!

この取組みが平成18年2学期に始まった当初はコミュニティ協議会役員が街頭に立ちましたが、現在では各自治会の防犯委員、民間交通指導員などのほか、青少年育成指導員やボランティアの皆さんの含む約80名のほか、PTAにも協力いただいています。

中学生になった子ども達も挨拶をしてくれ、これまでの見守り隊活動の苦労が報われて、暖かい気持ちになったとの声もあります。

子どもたちを見守る大人の存在は地域コミュニティの暖かさを象徴し、積極的な声かけは地域の防犯にも役立っています(五常校区は犯罪発生数の少ない地域の一つです)。多くの皆様に参加していただけると、一人ひとりの負担は少なくなります。各自治会の新役員の皆様をはじめ、より多くの方が五常っ子見守り隊に参加していただきますよう、お願いいたします。

卒業生に贈るお餅つき

恒例の「卒業祝いのお餅」を2月27日に五常小学生の6年生に贈りました。この日は朝から1斗(約15kg)のもち米を蒸し、子どもたちが見守る中、コミュニティ協議会の呼びかけに応じて参加してくださった方々にお餅をついていただきました。



子ども達のために、よいしょ!

信号機が設置される



香里ヶ丘8丁目の公孫樹通り・淀見通り交差点に信号機が大阪府警察によって設置され、3月6日から運用がはじまりました。

出来立ての紅白のお餅を児童たちは大変喜んでくれました。五常っ子見守り隊が一年生の時から6年間声をかけてきた子どもたちの卒業に感無量との声も聞きました。

グリーンタウン香里ヶ丘西側の開発により、公孫樹通り、淀見通りの交通量が増加し、この交差点で出合頭

防犯灯のLED化の推進について

枚方市役所は平成25年度予算案に防犯灯のLED化推進をあげています。予算は枚方市議会の議決によって成立することから、詳細は発表されていませんが、従来の蛍光灯型の防犯灯をLED型への更新も補助の対象となります。補助金額はLED防犯灯費用の8割で上限額が定められていることから、自治会も負担が必要です。防犯灯のLED化は省エネルギーや電気料金の節約にもなりますので、今後、各自治会におかれては、計画的なLED灯への更新を検討していただくようお願いいたします。

煙突山の桜まつり

平成25年4月7日(日) 10時~15時
枚方市上下水道局妙見山配水池

配水池は法令で衛生上の特別の配慮が必要で、ペットの入場は禁止です。妙見山煙突は枚方市の戦争遺跡に指定されていますが、配水池内にあるため、普段は入ることができません。当日は枚方市人権政策室の見学会が同時開催されます。

の事故が発生するようになったことから、八香会が設置を要望していたものです。交差点周辺の住民の皆さんの御理解を得て、ようやく設置され、校区の交通安全対策がまた一歩進みました。